

# 犯罪のない安全で安心な、まちづくりをめざして!

富水地区の皆様へ  
さあ、防犯パトロールに参加しよう!

防災・防犯分科会は平成26年12月21日(日)北ノ窪・府川・久所・仲沢地区を防犯パトロールしました。道で出会った人・買い物・散歩している方へ挨拶を交わして活動をアピールし、富水地区全体の防犯意識の向上につなげています。



## 『大地震は 揺れている間は動けない』



講師の南林委員

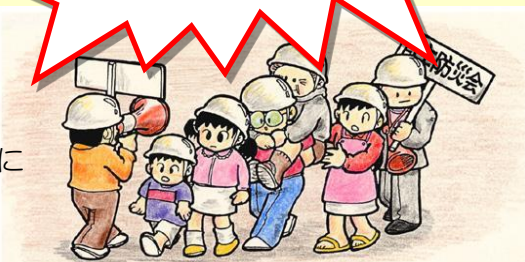
同日18時から北ノ窪公民館で防災・防犯講演会が行われました。講師は阪神淡路大震災で睡眠中に被災された南林敏之委員。「家具の無い单身生活と家に偶然あったおにぎりでも救われた」という

体験談は減災に繋がる言葉として心に残りました。

平成27年は災害から20年の節目にあたります。

家庭での家具の転倒防止・非常用品の確保・避難所はマップをもとに歩いて再確認をして欲しいと提言もありました。

自分の身を守り、  
共に助け合い、  
公共の支援を待つ。



# どんど焼き

1月10日・11日・14日実施

『無病息災を願い団子を焼き頂く』

さいの神のお祭りどんど焼きは最近では防災上、富水地区でも田んぼの中や公園で実施している。

そんな中、ローゼン前の道路を境に北側に位置する新屋(上)のどんど焼きは、道祖神の横に設置してあり伝統が残る。土盛りした形状は相撲の土俵に類似して、その上に各家庭から集まったお札や正月飾り・松の枝などを置き点火する。

運営も地元の協力を得て主に子供会有志が携わる…そこには懐かしい風習が残っていた。



太鼓が始まりの合図



子どもたちによる もてなし



新屋(上)



小台

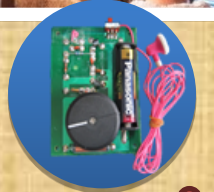


柳新田

## 文化・教育分科会主催

# ラジオ作り

1月25日(日)富水小学校図画室で富水地区まちづくり委員会文化・教育分科会主催で「ラジオ作り」が行われました。地区内各学校にチラシ配布をご協力いただき、富水小学校、報徳小学校、小田原養護学校から希望する子どもたちが参加しました。神奈川県電波適正利用推進員協議会、メリットファイブメンバーズハムクラブの皆さんのご協力のもと、子どもたち自身の手でラジオを作りました。手作りラジオからAMラジオ放送が聞こえてきて、子どもたちは嬉しそうに耳を傾けていました。保護者同伴で参加した子どもたちもあり、家族の絆を深めるよい機会となりました。



完成品



# もっと知りたい! わがまち富水

## 歴史的遺産

## 飯田岡地区

福田寺と高瀬舟 (飯田岡 257 飯田岡駅東北約700m)

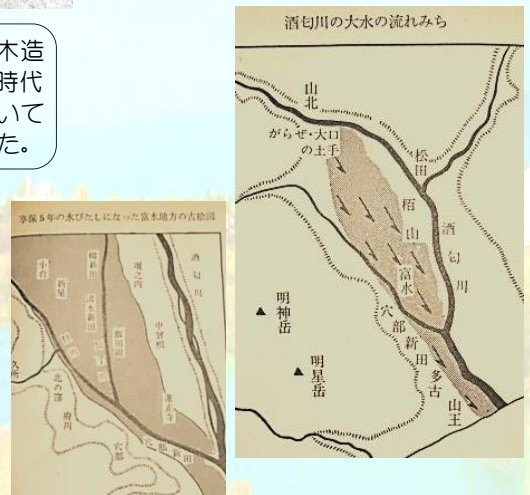
福田寺は飯田山安養院と号する東寺真言宗のお寺である(JA西湘富水支店の北側に位置する)。保延2年(1136)の創立。近くの八王子社(現在の飯田神社)の神事を行う別当寺を務めた。この福田寺本堂の裏手に廻ると、鉄骨の覆い屋の中に、木製の舟が据えられている。この木製の舟がいわゆる“高瀬舟”だ。この高瀬舟は、明治時代に造られたもので、当時木橋であった飯田岡橋が大水で流された時、渡し舟として使われていたという。その頃はあちこちの家で大水の用心のためにこのような舟を持っていたようである。富水地域と水・酒匂川とのいわば負の関わり-《ひとたび水が出れば人も家も流される、という常に水の脅威にさらされていた地域だった》-が、この高瀬舟の存在からも理解することができる。



高瀬舟とは:河川や浅海を航行するための木造船。室町末期に岡山県で使用が始まり、江戸時代に日本全国に普及。帆走の他、馬や人間が曳いて運行し昭和の初めまで多くの河川で使用された。



長さ5.3m 幅約1.8m 底は平ら



富水地区が“酒匂川の大水の流れ道であったことを示す古絵図:『とみず子ども風土記』より

「福田寺に高瀬舟が」と聞いて、浅はかにも“罪人を乗せる舟(森鷗外『高瀬舟』)がなぜこの地に?”とげんげんに思ったのだが、その思いは間もなく払拭された。これこそがかつての富水地区の土地柄を今に残す証の一つなのである。

参考:『身近にある小田原の史跡』『とみず子ども風土記』『おだわらの歴史』